

タリン教育大学（エストニア）の日本語教育事情

エストニア日本語教師会・会長 高橋清彦

1) 開講年 2000年1月開講

2) 歴史

2000年1月に報告者の尽力により、哲学部オリエンタル・センター所属の一般選択科目の講座として開講、当初からヤルヴェオッツア高校の邦人教師2名（高橋、園部、両名）が務めたが、2000年10月からは園部1名になった。

3) 位置付け

同大学に在籍している学生は専攻の如何を問わず、受講が可能。又、他の大学・専門学校の学生にも、一般のタリン市民にも広く門戸を開放している

4) 学習時間

週2回、各回90分単位、 Semester制で単位を与える。

5) 日本語関係教員数 1名（非常勤）、母語 1名

6) 学習者数（本年6月時点）

2年次（学習歴1年半） 7名

1年次（学習歴半年） 9名

合計 16名

7) 使用教材

初級日本語、及び同テキスト付属教材

8) 到達レベル

2年次（学習歴1年半で3名が能力試験3級レベルに到達）

1年次（学習歴半年でほとんどの学習者が*5級テスト合格）

参考）5級テストとは、報告者（高橋）と園部の共作によるヤルヴェオッツア高校一年生終了時に課せる試験問題のことである。日本語能力試験4級を更に簡単にした形だが、文字・語彙、読解・文法から構築する）。

9) 特記事項

(1) 本年9月から国際交流基金の援助（現地講師謝金）が決定したので、大学側は、9月から大学の正式日本語講座に格上げにする。

(2) ヤルヴェオッツア高校日本語履修者中の最優秀者レベルが既に5名在学（中2名は9月からの入学決定者）して居り、これらの学生を高校時代より更に上のレベルへの継続学習が可能になった。

(3) 多数の初級学習者育成よりも速やかな中級レベルへの育成を目指し、学習意欲のある学習者のみによる少数精鋭主義を目指している。すでにヤルヴェオッツア高校の最優秀者レベルの2倍の速度での学習成果を上げ得ることを日本語能力試験の結果から実証している。

(4) 9月からの基金助成措置により、当大学学生のみならず、タリン市内の他大学・専門学校在学者及びタリン在住一般市民の日本語学習希望者を取り込み出来る様に授業開始時間を夕方への繰り下げを目論んで大学当局と交渉中。

(5) 学術用（ジャパノロジー）ではなくて、「実用日本語」の習得をスローガンにしたい。